日　時　　令和３年10月９日（土）午後２：00～
場　所　　東海村産業・情報プラザ（アイヴィル）多目的ホール

第４回東海村“自分ごと化”会議

～“原発問題”を自分のこととして考える～

議　事　録

第４回会議　出　席　者
■会議参加者 ・村民　15名（住民基本台帳から無作為抽出した村民で会議参加を希望した方，男性11名・女性4名） ・伊藤　伸氏（一般社団法人 構想日本 総括ディレクター） ■その他，出席者 一般社団法人 構想日本 ・石川　喬弘氏（プロジェクトリーダー） 東海村 ・村長 ・副村長 ・村民生活部長 ・防災原子力安全課長ほか5名

開　会

○司会（平根補佐）　定刻となりましたので，ただいまから，「第４回東海村“自分ごと化”会議～“原発問題”を自分のこととして考える～」を開催いたします。

私は，本日の司会を務めさせていただきます，東海村村民生活部防災原子力安全課課長補佐の平根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

第４回“自分ごと化”会議の進め方等の説明

○司会　それでは，早速ではございますが，お手元の，お配りしております次第の２「第４回“自分ごと化”会議の進め方等の説明」に入らせていただきます。

初めに，会場の傍聴者の皆様に，傍聴に際しましての注意事項を御連絡させていただきます。

その後，この“自分ごと化”会議参加者によって今週10月３日（日曜日）に行いました福島県の東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所等の施設見学について振り返ってまいりたいと思います。

説明は，当課係長の山路からとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

○山路係長　皆さん，こんにちは。防災原子力安全課の山路です。

ただいま司会から御案内のことにつきまして，私から，若干時間を頂戴しまして御説明させていただきます。

最初に，傍聴の皆様へのお願いでございますが，お配りしました資料１「東海村“自分ごと化”会議注意事項」を御覧ください。

まず，「１．『新型コロナウイルス感染症』対策について」でございますが，マスクの着用，咳エチケット，手洗い，アルコール消毒，会場内の換気等への御協力をお願いします。

そのほか，体調が思わしくないときの対応，「いばらきアマビエちゃん」の登録，後日に感染症患者が確認された場合の取り扱いについて記載してございますので，そちらにつきましても御協力のほど，よろしくお願いいたします。

続いて，「２．傍聴席の御利用に際して」でございますが，席の御移動は最小限にしていただきまして，御発言や会話等は御遠慮ください。

また，傍聴席からの御質問等には応じられませんので，あらかじめ御了承願います。

なお，携帯電話の電源等，操作などに御配慮願います。

加えて，写真撮影や録画，スマートフォン・ＩＣレコーダー等を使用しての録音・録画，ＷＥＢ配信等につきましては，報道関係者を除き，一切を禁止させていただきますので，御理解・御協力をお願いいたします。

最後に，アンケート調査でございますが，率直な御意見等をお聞かせいただければと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

次に，“自分ごと化”会議参加者で今週３日に行いました福島第一原子力発電所等の見学につきまして御紹介させていただきたいと思います。

この施設見学は，いわゆる原発問題について議論を深めていく上では，10年前の東北地方太平洋沖地震に伴って発生しました福島第一原子力発電所の事故，その後の福島復興に向けた取り組みなどを実際に御覧いただく機会は欠かせないものと考え，希望者を募って実施したものでございます。

同様に，“自分ごと化”会議の参加者から希望者を募って去る５月に見学しました日本原電東海第二発電所等における安全性向上対策工事は，この福島原発事故の反省や指摘を踏まえて，国の原子力規制委員会が策定しました新規制基準に基づいて進められているものでございます。

見学当日は，水素爆発があった１号機から４号機までの原子炉建屋外観を約100メートルの位置から間近で見ることができる俯瞰エリアからの見学をはじめ，廃炉に向けて進める核燃料の安定冷却や，原子炉内で溶け落ちた核燃料が冷えて固まりましたデブリの取り出し，汚染水の発生や放射性廃棄物の保管，今，ニュースや新聞等で取り上げられ注目されております，汚染水を浄化処理しましたＡＬＰＳ処理水の保管・海洋放出などに関する説明を受けたところです。

本日，映像を交えた御紹介ができればよかったのですが，発電所における核物質防護上の制約もありまして，それがかなわないことから，当日実施しました参加者のアンケート記載の一部を御紹介させていただく形で振り返ってまいりたいと思います。

配付しました資料２を御覧ください。

まず，（１）見学しての感想については，参加者全員から「見学してよかった」という回答をいただきました。

その理由の一部を御紹介しますと，「当時のままの原発の建物を見ることができて，あの爆発がどれほどの威力だったのか自分の肌で感じることができた」「ニュースでしか見たことのなかった発電所を見学できて，その管理や対処方法等，肌で感じられたよかったです」「報道だけでは知り得ない状況を見られた」などでございました。

次に，（２）興味・関心を持ったところについては，先ほど簡単に御紹介しました，１号機から４号機の現地の建屋外観俯瞰エリアやＡＬＰＳ処理水のサンプルが高く，その理由としては，「事故の現実と，目に見える形での今の工事や当時の設備の様子が見えたから」「原発事故を起こした原発は，これまでも廃炉が完了しているものはない。（チェルノブイリ，スリーマイルなど）各国のやり方は大きく異なると思うが，各国の英知を結集し，解決していってほしいし，廃炉完了に向けて，引き続き努力していってほしいと思いました」「色々と話題になっているＡＬＰＳ処理水を見ることができた」「今後の海洋放出を踏まえ，積極的な安全性アピールが必要では」などがございました。

続きまして，（３）福島第一原子力発電所事故の教訓として自分なりに思うことについては，「全てを把握し，理解することは不可能だが，外部に，人に依存しないようにする

心構えが重要だと感じた。（まさに自分ごと化…）」や「住民の目線では，かなり天災によるものだと感じる。これも災害と捉えて，防災意識を高めるしかないのかなと思った」「“想定外”の事象だと割り切るのではなく，現実的な研究開発と，それを踏まえた想定を正しく行い，必要な対策を続けていってほしい。ただの“災害”として済ませるのではなく，教訓としてほかの原発（東海第二も）対策を行い，次に進めていってほしい」などとのことでございました。

最後に，（４）見学を通して印象深かったことや感想についてですが，「10年前のままで残っているものが多く，まだまだこれから処理が長く続くのを実感した。未知の技術課題が多いと思われるが，着実に進めていってほしい」「少しずつだが，復旧できているのが感じられた」「発電所だけでなく，帰還困難区域の様子に，荒れた店舗や，きれいな戸建ての家にも住民が住めない景色に心が痛みました」などとのことでございました。

参加者の皆様におかれましては，この見学を通して，さらに見識を深められ，原発問題というものへの思いを新たにされたことと思います。

この後，本日の会議の中では，課題ということに注目しての全体協議がございます。参加者の皆様からは，福島の事故・復興を御見学されてという観点からの御発言など，活発な御協議を期待させていただきたいと思います。

私からの説明は以上でございます。

○司会　続きまして，次第に従いまして，（２）第３回会議の振り返りに移ってまいりたいと存じます。

ここからの進行につきましては，構想日本総括ディレクターの伊藤様に交代させていただきます。

皆様，どうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤　こんにちは。構想日本の伊藤です。本日はよろしくお願いいたします。

前回は７月の下旬で，オンラインでこの会議を行いましたので，お会いするのは多分４月以来，半年ぶりではないかなと思います。前にも申し上げたかもしれませんが，この“自分ごと化”会議は，大体１か月から１か月半の間隔でやることが多いのですが，今回コロナの延期によって，大体２か月とか３か月間隔での実施になっています。

間隔が空き過ぎると，前回，何を話したか忘れてしまう部分もありますし，間延びをしてしまうと，だんだん参加者が減るという傾向があるのですが，東海村の場合は，１回目の去年12月が18名，今日15名ですか，余り人数が変わっていないし，先日，急遽行った福島第一原発の見学も14名参加されていますので，その意味では，皆さん，関心を持ち続けていただいているということはとてもありがたいですし，重要なことではないかなと思っています。

今日は，ゲストやスピーカーを呼んでいるわけではありません。今日が４回目になります。全部で５回ですので，次回は最終回に当たります。最終回は，これまで話し合ったことをまとめて，前にも申し上げましたが，一部，提案書のような形でつくりますので，ま

さに集約する時間が最終回，５回ということになります。ですので，言いたいことを言う場は一応今日が最後ということになりますので，この後，今日話し合いをするテーマをお示ししますが，まずは，この間，色々感じたことを，言い忘れたことのないように，皆さんに御発言いただきたいと思います。

資料５を御覧ください。

こちらが，これまでの議論を構想日本で取りまとめたものになります。これは，第２回の議論をまとめているほか，前回の会議でいただいたものを新たに加えたものになります。

あらかじめ申し上げると，例えば「原発の安全性」と書かれているけれども，これについて，どう思いますかといった議論を今日するわけではありません。これまで話し合ったことを一定程度まとめたものですので，参考という位置づけで御覧いただきたいと思います。

前回の振り返りは，これを見ていただくと思い返すことがあるかなと思いますので，ちょっと振り返っていきたいと思います。

まとめ方ですが，大きく２つのカテゴリーに分けています。「原発の安全性」と「今後のまちづくり」についてで，それぞれ細かく幾つか分かれています。

２ページを御覧ください。

「原発の安全性」について，皆さんが具体的にどんな課題を書かれていたり，発言をされていたかということが大きく２つ出ています。

前回は，ここに出ています東海村の広域避難計画の話が前半にありました。後半は，今の東海村の，原子力関連施設が多いという特徴を活かしたまちづくりはどういうことが考えられるかということで，大きく２つのテーマについて話し合いをしました。皆さんからとても具体的な御意見をいただいています。ですので，２ページ目以降，課題の中でも幾つかグループ分けをしています。

課題の①番，避難計画・ルートが十分でないのではないかという課題を書いています。

では，具体的にどういうことをすれば改善できるのかという中で，個人，地域，行政と分かれています。

個人の中では，前回お話があった広域避難計画に関してであれば，例えば１つ目の項目，避難に当たって行政に準備しておいてほしいものを提案していこう，また，周囲からも意見を求めていこうといった御意見とか，３つ目のところ，避難訓練に参加することで，避難先の確認とか，改善に向けた意見・課題を挙げることができる。参加される人はまだ余りいなかったというところだったかと思いますが，これに参加することで具体的に考えていこうというのが個人の取り組みとして皆さん書かれていました。

もう一つ，「避難ルート，避難方法に関すること」というところがあるかと思います。２つ目のところ，自分の避難先，避難ルートをあらかじめ下見しておこうとか，家族の話を書かれているのが非常に多くありました。村のルールを家族内で共有しておくとか，どういう行動をとるのか，どこに行くのかということをあらかじめ決めておこうという御意

見がありました。

次，地域の取り組みです。

「東海村広域避難計画に関すること」でいくと，２つ目のところ，避難訓練参加を呼びかけていく。地域としても参加していく。そういったことをすることで，当事者意識をもっともっと高めていこうという御意見が多く出ていました。

こういった形でまとめています。今日，これを一言一句やっていくと，これだけで時間がかかってしまいますので，今みたいな感じで少し端折りながら，前回，どんなことを議論したかということを少し思い出していただければと思います。

３ページ目，行政の取り組みです。

広域避難計画に関して，３つ目の点のところ，避難計画の実効性を上げる取り組みを継続して行っていこう。これはシミュレーションを行うといったことが必要ではないかという御意見とか，その２つ下，実効的，具体的計画として策定していこう。これは，前回，現状はまだ案という段階だというお話があったかと思います。

皆さんに，発言だけでなくて，改善提案シートも書いていただいていますが，実際，ここにも書いている。運用していく中で，もし修正があれば，随時修正していく必要があるのではないかということも御意見としてあったかと思います。

その下です。避難計画についての学習と避難時の行動を考える機会を，学校教育の中にも入れていけないか。子どものときから，そういうことを皆で認識していこうという御意見。

「避難ルート，避難方法に関すること」というところで，本当に安全なのか不明確，しっかりと丁寧に説明してもらいたいということ，津波や地震で道路が寸断された場合も含めて考えた避難ルートの検討が必要ではないかといった御意見がありました。

４ページを御覧ください。

もう一つ，「原子力事業者の取り組み」というのがあるかと思います。

広域避難計画に関してであれば，１つ目のところ，行政と協力して，広域避難計画の策定，実効性の向上。形式的につくるのではなくて，実効性のあるものにしていこうという御意見が出ておりました。

もう一つ，その下です。一事業者ではあるが，住民の安全には一定の責任があるということをしっかりと認識した上で，警察や自衛隊との連携を強化していこうという御意見が出ておりました。

この箱の中の一番下です。「その他」と書いてあるところがあるかと思います。ハザードマップや避難経路についての専門家視点の意見を出していくという御意見がありました。

このように，皆さんからかなり細かく御意見をいただいたものをまとめております。前回も少し申し上げましたが，ここに書かれているものは，基本的には皆さんが書いたものをできるだけ活かしつつ，ただ，ここに書いて，表現が分かりにくいと思うところや，同じような内容のことを違う表現で書かれているものも非常に多くありますので，そこは少

し編集しております。

５ページを御覧ください。

課題の２つ目，「原発の安全性がまだ分からない」ということで，これは第２回のときの議論を踏まえているものですので，特に変更はしておりません。

６ページを御覧ください。

大きく２つ目のカテゴリーになります。「今後のまちづくり」についてということで，こちらは非常に多く御意見が出ていた部分になります。アンケートにも色々あったのですが，前向きな議論ができたということ。今後これを，自分だけでなくて，自分の周り，子どもにも伝えていきたいといった御意見があった。そういったことも書かれていたのですが，そこを踏まえて，良い御意見がたくさん出ていたと思います。

１つ目の課題，東海村の今後のまちづくりについて議論が足りていないのではないか。

個人の取り組みです。ここに４つ出ていますが，その中の一番下のところ，今後のまちづくりの方向性の具体策，産業創生に寄与できる方法を，行政に委ねるだけではなくて，個人単位でも考えていこうという御意見が出ておりました。

地域の取り組みです。２つありますが，そのうちの１つ目です。東海村の将来を地域の中でも語る場をつくっていこう。確かこの後，どこかに出ていましたね。こういう場を色々なところでつくっていくことによって，前向きな話し合いができる機会が増えるのではないかという御意見が多く出ておりました。

行政の取り組みを御覧ください。

同じですね。１つ目は，東海村の将来を村として語る場をつくっていこうという御意見が出ていました。

３つ目のところ，東海村の特徴として原子力は大きな部分なので，もっと原子力を利用したまちづくりを進めていこうという御意見もあれば，そこから３つ下のところ，原子力以外の魅力も情報発信していく。原子力という特徴をもっともっと前面に出していくべきだという御意見もあれば，逆に，東海村は原子力以外のところも魅力があるのだから，それを発信していく必要があると。これは両面の御意見が出ていたかなと思います。

こういう感じで，もちろん，ここにおられる皆さん全員が同じ意見，同じ考え方になるわけではありません。場合によっては，今のように両論というか，反対側の意見も出ている。今，両方とも載せている。最後，提案書という形にまとめるときには，できる限りこの場の中で，参加者皆さんの中で，ある程度共有できる提案を次回，目指していきたいと思っております。

６ページ，引き続きですが，一番下です。箱物の話が一部ありました。箱物を新しくつくらず，今あるものを活用するとか，活用法を見出していくほうがいいのではないかという御意見が出ています。

７ページ目を御覧ください。

原子力事業者の取り組みとして，例えば上から２つ目ですが，東海村でしかできないこ

とを模索し，実施していこうとか，原子力又は原子力施設を利用した新しいエネルギー開発支援。これも前回，少し議論があったかと思います。

さらに，現在の研究開発企業の拡大と，新規企業の誘致を図り，学園都市やシリコンバレーのような街を目指していく。このようなことも今後考えていく必要があるのではないかという御意見が出ておりました。

７ページ目の２つ目の課題，原子力に代わる新たな東海村の魅力の創出が必要ではないか。

では，どうやっていこうかという中で，例えば，地域の取り組みとして４つ書いているうちの３つ目，新たな魅力創出のための周囲のさまざまな活動を歓迎し，受け入れていこう。色々やってみようというところの御意見ではないかなと思います。

８ページを御覧ください。

行政の取り組みです。

一番上，東海村の人口の少なさ，面積の小ささを逆手に利用して，新たな地域交通手段の実証実験を行うことができるスマートシティを目指そう。スマートシティは，今，全国で幾つか指定されているところもありますが，こういうものを東海村としても目指していくことができないだろうかという御意見がありました。

その３つ下，他電力（関西電力等）の原子力発電所の使用済燃料を乾式キャスクで受け入れて保管する方向で，国・県・市町村と調整することができないか。乾式キャスクについては，前回，最後のほうで発言があったかと思います。プルトニウムを入れておく容器で，通常，湿式キャスクということで，水を巡回して冷却していこうというやり方と，乾式というのは，容器に入れて，その中で冷やしていく。そういったことを新しい技術としてやっていったらどうかという御意見だったと思います。

原子力事業者の取り組みです。

若者が定住するよう雇用の確保を，行政だけでなくて，事業者としても考えられないか。

「代替エネルギーに関すること」として，水素エネルギーなどの代替エネルギー活用の議論を進めていけないだろうかといった御意見が出ております。

９ページを御覧ください。

課題の３つ目です。「東海村の特徴と魅力が十分に理解されていない」ということで，これは今までの１番，２番と似ているところもあるかと思います。まだまだ発信できていない，さらに理解されていないというところになります。

個人の取り組みであれば，１つ目，東海村の歴史を周囲と一緒に学んで，郷土愛を深めていけないかという御意見。

地域の取り組みの１つ目，地域ごとに“自分ごと化会議”を開催するなどして，東海村への理解を深めていけないだろうか。原子力事業のメリット・デメリットだけでなくて，東海村行政の中での原子力の必要性ということも考えていく必要があるのではないかという御意見。

行政の取り組みの１つ目，原発，原子力の良いイメージの話だけではなくて，リスク，デメリットも一緒に伝えていく。考える材料をもっと示していってほしいというところかなと思います。

３つ目のところ，若者に村の魅力を発見してもらい，先ほども出た郷土愛の育成に貢献していく。もちろん，原発や関連施設があるというのが特徴ではあるけれども，村として，一回出た若い人が戻ってくるといったまちづくりが必要ではないかという御意見から出ているかなと思います。

10ページを御覧ください。

原子力事業者の取り組みです。前のページから幾つか出ていますが，原子力事業者の取り組みの一番下，地域に根差した企業となるために，地域のイベント，お祭りなどにも関与していくことが必要ではないかといった御意見がありました。

課題の４つ目は交付金の話です。これは第２回で話し合いをした内容ですので，特に修正を加えているものではありません。

課題の５つ目の交付金がなくなることを想定した議論も同じですので，12ページを御覧ください。

６つ目の課題，原発の廃止とその後について議論がされていない。これも第２回のときに少し出ていたのですが，若干追加しております。追加されたところだけ申し上げると，個人の取り組みのところで，発言できる場でしっかり問題提起をしていこう。これは確か前回，いずれにしろ廃炉があるので，廃炉に向けた研究や議論を今から進めていく必要があるだろうという御意見が出ていたかと思います。

同じような話です。原子力事業者の取り組みの中でも，原発廃止後の産業のための研究に力を入れていけないかといった御意見がありました。

これが，第２回，第３回，皆さんに改善提案シートに御記入いただいたことをまとめたものになります。先ほど申し上げたように，今日，これに基づいて議論を進めるわけではありません。まずはこれを参考として皆さんの頭に，前回の振り返りを含めて，少し入れておいていただきたいと思っております。

ここまでで，前回のことを含めて，何か御質問がありませんか。大丈夫ですか。

では，今日，何をするかというところです。次第のところにも書いていますが，皆さんの改善提案シートの「その他」の欄に書いてあることや，アンケートの中に書かれていることをもとにしながら，今日の話し合いのテーマを一定程度決定しております。２つあります。

１つ目は，みんなで考える，東海第二発電所が立地していることによる地域の課題は何だろうか，東海第二発電所があることで，どんな地域課題があるのだろうか。

２つ目は，私にとって，自分にとって，東海第二発電所そのものが抱える課題は何だろうか。

①と②は似たような設定になっています。地域としての課題は何なのかということ，ま

た，自分にとって，今，東海第二があることはどういうことなのかを考えて議論していきたいというのが今日のテーマになります。

なぜこのテーマかというと，１回目はほとんど現場の共有でした。“自分ごと化”会議でこんなことをやりますよとか，専門家に来てもらって，全体で話をしていただきました。２回目は，原発があることによる交付金の話とか，東海第二があることで，どういう強みがあるのかといった話を中心にしていきました。３回目は，先ほど申し上げたように，避難経路，広域避難計画の話と，関連施設がたくさんあるということで，この特徴を活かした今後のまちづくりという話をしました。

皆さんからいただいた御意見の中で，今回は，東海第二原発についてどうするか。もちろん，これはイエス・ノーを求めるための会議の場ではありません。何回も同じことを言っています。その上で，では，今まで色々な視点で考えてきたけれども，それらを踏まえた上で，今ここにある東海第二は，自分たちにとってどういう位置づけになってくるのか，どういう課題があるのかというのを，この４回目のタイミング，最終回の前のタイミングで，改めて皆さんと話し合いをしようというのが今回のテーマ設定ということになります。少し抽象的な設定になっています。

先ほど申し上げたように，今日書かれていることに基づいたこと以外話してはいけないということではなくて，この間，福島に行かれたり，ほかのところで話をしたり，色々なことをされていると思いますので，そういったことも踏まえて，皆さんに感じていることをどんどん御発言いただきたいと思っております。

今日やること，よろしいですかね。

最後にまた改善提案シートを御記入いただくことになります。配られていると思います。改善提案シートの御記入をお願いすることになります。大変かもしれないのですが，まとめるに当たって大変重要な資料になりますので，ぜひ御記入ください。発言していないことでももちろん構いません。感じていて，なかなか発言できなかったことでも構いませんので，御記入いただきたいと思います。

全体協議

○伊藤　では，これから議論を進めていくのですが，最初に事務局から御紹介があった，福島第一原発を見に行かれた方はどのくらいいらっしゃいますか。

〔参加者挙手〕

○伊藤　半分ちょっといらっしゃいます。そのときに私は行けなかったのですが，これまで２回ほど行ったことがあります。

アンケートに書かれていることは皆さんの感想なのですが，そこの振り返りからしていきたいと思います。

行った感想はいかがでしょうか。Ｔさん，いかがですか。

○参加者Ｔ　行った感想としては，10年前に被災したものがそのまま残っているのが多いなというのでちょっと衝撃を受けた。やはりインパクトが強かったです。爆発した１号機から４号機までをそのままこの目で見ることができたのは，結構インパクトが強かったなというのが感想です。
○伊藤　イメージでいくと，逆に，もう少しもとに戻っているのではないかとか，例えば建物があったところが更地になっているようなことをイメージされていましたか。
○参加者Ｔ　普通にという言い方はあれですが，普通の災害だと，建物を建て替えたり，更地にしたりというのが進んでいるのですけれども，やはり原子力の事故は特異なのだな，チェルノブイリと同じような感じで，そのまま残ってしまうのは衝撃的だなというのはありました。
○伊藤　ありがとうございます。
　Ｉさん，いかがですか。
○参加者Ｉ　私が行って感じたのは，あれだけの大規模な原子炉の事故だったのに，あんなに近くに行けるのだなというのが衝撃的でした。もっと厳戒な管理体制で，物々しい感じで，本当に戦闘のような状態をイメージしていたのですね。でも，案外近くまで行けて，記念撮影などをして，そんなことをやっていいくらいになったのだなと思って，ああ，皆さん，ここまで頑張って復旧したのだということで，そこは良い意味で衝撃を受けましたね。
　あと，印象に残っているのは，やはりあのゴーストタウンですかね。そこは物すごく生々しかったですね。本当に時間が止まったかのようなあの雰囲気を自分の目で見たのは貴重な経験になりました。
　以上です。
○伊藤　Ｍさん，いかがですか。
○参加者Ｍ　私は，施設，発電所の中に関しては，テレビ等で見ていたので，ああ，このようなのだなというのと，距離感としては，現実に見るのとテレビで見るのでは違うなと思ったのですが，やはり帰宅困難地域のまちの様子が衝撃的でしたね。全部が草になってしまっているといった状態であれば，それはそれで，ああ，仕方がないことなのかなと思えたと思うのですが，その中で，きれいに家を手入れされている方がいらっしゃるというところに，ずっと住んできた方の思いを感じて，そういったものが心に響きました。
○伊藤　ありがとうございます。
　確かケーズデンキが数日後にオープンするタイミングであの事故が起きたので，そのままだった。私は何年か前にそれを見たのですが，とても強く印象に残っています。
　Ｖさん，いかがですか。
○参加者Ｖ　私は発電所関係なので，近くに行ったりしたことがあるのですが，あんなに間近で見たのは初めてで，どなたか言われましたけれども，地元の環境としては，もっと殺伐としているのかなと思ったのですが，すごくよくなっていると思うところと，近くで

行くと，１号機は鉄骨がむき出しになっていたり，見学していると，アラームがピーピー鳴り出したりして，まだまだ廃炉の途中なのかなというのは感じました。

それから，当日，東電さんが処理水のことをすごく一生懸命説明されていて，私は，トリチウムはそんなに強い放射能を出すものではないと聞いている中で，東電さんはすごく御苦労されているのだなと思って聞いていました。

○伊藤　まずは，行っていない方にも，アンケートの文面だけでなく，認識，イメージを共有していただきたいということでお聞きしました。今の話は，今日のテーマである，東海第二があるということとつながるところも出てくるのではないかなと思いますので，行かれた方は随時，感じたことをお話しいただければと思っています。

１つ目のテーマ，東海第二発電所が立地していることによる地域の課題は何だろうか。すでに課題はほとんど解決されているのではないかということも出てくるかもしれませんし，もちろん，この間出てきたものにつながるところもあると思うのですが，どうでしょうか。皆さんが普段生活されて，また，こういう会議でちょっと考えるようになって，今，東海第二があることによる課題はどんなことがあるだろうか。

Ｈさん，いかがですか。

○参加者Ｈ　この課題を自分も今考えているのですね。正直に言えば，今，原電さんがいて，課題として細かな事項等はありますが，何か変なものを放出しているとか，ダイオキシンが出ているといった話もないし，ちゃんと安全に運転していただければ何ら問題なく，東海村の中で一緒に共生しているような気がしていますけれども，あえて課題と言うならば，東海村の中でリスクがあるかもしれませんが，そこの安全性について，東海村の中で意見が割れてしまっているというところではないのかなと。それで村の中で議論がしにくいのか。してきているのかどうか，よく分からないところがあるのですが。

すみません。実質的な課題は，私は今，ちょっと思い浮かばないというところです。

○伊藤　議論しにくくなっていることが課題ということですね。

Ａさん，いかがですか。

○参加者Ａ　福島第一を見て，色々思うところはありの上で，東海村の地域というか，日々の生活とか，色々なことを考えたときに，やはり幸せになるために皆生きているのだと思うし，自分の幸せは，やはり子どもが健やかに育つことだったりで，それに対して，私もかなり衝撃を受けましたが，残念ながら，東海村が福島第一の帰還困難区域のようになる可能性はゼロではないとなったときに，では，子どもが健やかに成長できるような，村民全員が幸せな暮らしができるような村にしていくための課題は，福島第一のさまと言うとあれですけれども，見て思ったのは，正しく恐れることだったりで，難しいですが，正しく恐れるためにも，色々なことを知ることも大事だし，人がこう言っていたから，メディアがこう言っていたからこうなのだと盲目的に信じてしまうのではなくて，自分自身で正しく恐れて，知識をちゃんと蓄えて，自分で正解・不正解をちゃんと判断する。その先に何か万が一のことがあったとしても，速やかにちゃんと避難できるといったまちづく

り，皆の意識があればいいのかなと思うのですね。色々な知識を蓄え，人の話を聞き，共有する。知ることが課題かなと思います。
○伊藤　その意味では，福島に行ったことで，まさにそういう状況を知って，知識が入ったとＡさんは感じられましたか。
○参加者Ａ　正直，知識というところでは，どれだけ深くしても，やはり専門の人にはかなわないというか，分かるわけがないと思うのです。
　向こうでも言ったのですが，僕は震災直後に線量計を個人で買ったのです。持っていっていいという話だったので，線量計を持って中をうろついたというか，一緒に同行させてもらったのですが，ここから帰還困難区域に入りますと言って，バスが入った途端に，手元の線量計がぐんぐん上がっていくので，すごいなと思ったのですね。
　伊藤さんの質問に戻すと，知ったというよりかは，正直，前よりかは，ああ，すごく怖いものなのだと思って帰ってきました。でも，怖いから要らないというのは暴論だと思うので，今あるものだし，そういったものに対して，何かできることはないのかなと考えていかなくてはいけない。
　知ったというより怖かったですね。
○伊藤　ありがとうございます。
　ほかに。
　Ｅさん。
○参加者Ｅ　視点がちょっと違うのかもしれないですが，経済の観点からいうと，もちろんメリットはあるのかもしれないですけれども，東海村の経済は，原子力に依存し過ぎている部分があるのかなと考えます。これも以前から出ている内容かなと思うのですが，原子力産業への経済依存割合をちょっと減らしていく努力が必要なのではないかなと思います。
　東海村は，原子力以外の産業としては，米やサツマイモなどがあると思うのですが，それだけで東海村民全員が幸せになれるとはちょっと思えないかなというところがありますね。かなり難しい問題になってくるかと思うのですが，新たな産業をつくり出す必要があるのではないかなと考えています。例えば，米とサツマイモがあるのであれば，芋焼酎ブランド化とか，そんな新しいことができないかなと思います。
　以上です。
○伊藤　農業を一つの産業にできるのではないかという感じですか。
○参加者Ｅ　そうです。
○伊藤　ほかにある人。
　Ｄさん。
○参加者Ｄ　僕も福島第一に行ったのですが，例えばＡＬＰＳ処理水がすごく報道されていますが，希釈すれば科学的に安全に放出できるのに，それを海洋放出することに対して，報道を聞く限りでは，さも安全ではないような印象を受けるのかということで，自分はそ

このギャップを不思議に感じました。そこはマスメディアの報道の仕方なのか何か分かりませんが，実際に現場で話を聞いて，そのギャップを知りました。僕的には，ＡＬＰＳ処理水は普通に海洋放出していいのではないかなと思いました。
○伊藤　Ｄさんはもともとそういう感じを持たれていたのですか。それとも，見に行って，話を聞いて，見てみて，違うなと思われたのですか。
○参加者Ｄ　いや，もっと海洋放出してはいけないようなものかなと思ったのですが，行って，実際の数字を聞いて大丈夫なので，なぜそんなに騒ぐのかなという印象を受けました。それは東海第二も同じで，一般住民の方には，実際の科学的な安全性と違うところで情報が入ってきているのかなと個人的には思いました。
　あと，自分が行って，福島第一の住民のところを見て，心痛いところは色々あったのですが，戻ってきて，ちょっと冷静になって自分のことを考えたときに，東海第二があることによって受けている恩恵ということで，気持ちが今までと余り変わらなかった。福島第一の現実を見たからといって，自分の考えはそんなに変わらなかった。今のまま，東海第二と一緒に共存共栄していっても良いのではないかという気持ちのままであったのが自分でも不思議だったのですが，そんな感じでした。
○伊藤　ありがとうございます。
　では，Ｇさん，お願いします。
○参加者Ｇ　３．11の福島の事故の前は，特に何も考えていなくて，東海第二があるのが当たり前という感じで過ごしていました。３．11の後は，東海第二も休止中であって，新規制基準に向けて工事を進めているところで，40年超えの原子炉を，新規制基準に合格させるために工事をしていくのだなと考えていました。そのような状況で，今，東海第二発電所さんがやっているのは，事故が起きないようにするにはどうしたら良いかと言うのと，起きてしまったら，どのような非常用電源を準備するとか，そういうことをやって準備していこうと考えているのだと思います。
　東海村の中で，再稼働に賛成している人，反対している人がいらっしゃると思うのですが，どちらでもないという人を少なくしていくことが非常に大切かなと思っています。それが課題ではないかと思っています。
　以上です。
○伊藤　難しい質問かもしれませんが，賛成でも反対でもない人をどうやって減らしていくか，手段としては何が考えられるか，いかがですか。
○参加者Ｇ　それは非常に難しいですれども，今，我々はこのように“自分ごと化”会議をしているのですが，村民一人一人にも自分ごとと捉えていただいて，きちんと理解した上で，情報発信は色々あると思うのですけれども，それをきちんと受け入れて，賛成するのか，反対するのかというのを，村民の方にも自分ごととして考えていただければいいのかなと思います。
○伊藤　これは，さっきＨさんがおっしゃった議論しにくいということとすごくつながる

ところがあって，それを解決するために，今，Ｇさんから，情報をしっかり受け入れるという話があったかと思います。

Ｔさん。

○参加者Ｔ　課題なのですが，正直，自分ごととしては余りうまく考えられないというところがまず大前提というか，私は震災の後に越してきて，動いていない状態でずっと来ているので，多分，動けば課題が出てくると思うのですが，動いていない状態で課題と言われると，自分ごととしてはなかなか難しいなというのがまず大前提として１つあるのですけれども，ただ，その一方で，あえて言うのだったら，イメージの問題はかなり大きな課題かなと私は思うのです。原子力があるというので，知らない人からすると，興味がないか，ちょっと嫌悪感があるか，多分２通りぐらいかなと思って，原子力でイメージがよくなるのは余りないかなというのがあるので，イメージの問題は，実際，安全・安心かという話ではなくて，例えば東海村のものが売れないとか，行きたくないといったところにつながってしまうようなことで，そこは課題なのかなと思います。

○伊藤　Ｔさんが来る前のイメージと今住んでいる中でのイメージはどんな感じですか。

○参加者Ｔ　来る前は原発のイメージがありましたが，住んでみると，正直，それを余り感じていない。何か住みやすいまちだな，良いところだなという感じがして，余り感じていないというのが実情です。動き始めると，イメージがまたちょっと変わるのかもしれないなとも思っています。

○伊藤　Ｔさん自身は，原発自体，もともとネガティブなイメージをお持ちでしたか。

○参加者Ｔ　ネガティブでもポジティブでもなく，中立みたいな感じですね。

○伊藤　では，Ｍさん，お願いします。

○参加者Ｍ　私は，今お話を聞いていて，自分のこととして考えて，課題ははっきり分からないのですが，結婚して東海村に来たのですけれども，それまでは隣のまちにいたので，年寄りから，うちの孫は東海村には嫁にやらないということを言われて育ってきたのです。

縁があって東海村に来ましたが，来てみたら，もう何十年も前ですから，自分が今まで住んでいたところと何が変わりがあるのか分からないぐらいで，田舎でしたし，何がいけないところであって，何が恐ろしいところでということが分からないまま暮らしてきて，主人は原子力関係の仕事をしていたのですが，この何十年かの間に，事故と言われるものを色々見聞きしていて，主人も関わって，その対策をしている話を聞く中で，とりあえず中の人たちは，それに対して一つ一つ解決するような形。また，事故に対しても，今までこうやってきたから，ここまでは大丈夫ということで，ＪＣＯの事故の第一報の話を聞いたときには，さすがに，そういうことが起きたのだということがありましたけれども，それ以外のことに関しては，これはこういうことだから，外に影響はないという情報があって，周りにも，そういう情報を持っている方がたくさんいて，ＪＣＯのときにも，「家の庭にできた野菜は食べて大丈夫だから食べちゃっていいよ。何だったら私たちがもらって食べるから」という話もあったものですから，それがとても怖いとは思わないで今まで来

て，ほかの市町村との違いは，コンパクトにまとまって，生活をする上で便利なまちという感覚で暮らしてきたので，デメリットは余り考えていなかったのですね。ただ，大きなＪＣＯの事故があって，今回のものがあったときに，ああ，そういうことは私の周りでも起こり得ることだったのだなということは思いました。

ただ，先ほどからほかの方の意見を聞いていて，福島の家に帰れない方たちが，実際，原発は怖いものだと言いながらも，どうしてたくさんの方が東海村に定住されるような形で家を求めて住んでいるのかなということもちょっと思ったりしました。

事故があって住めなくなる，体に影響があるというのはとても恐ろしいことですが，生活していく中で，何をメリットとして，何をデメリットとしてということで，どのように考えていけばいいのだろうというのは，今回，この会議に参加させていただいて感じたというか，どう判断していくのが良いのかと今考えているところです。

○伊藤　ありがとうございます。今のMさんの最初のお話で，身近にそういうことを知っている方がいるからということで解決されている。他方で，福島の現状があって，では，これをどうつなげていくかを考えるところは，この会議自体，稼働したほうが良いか，しないほうが良いかということではなくて，今，Mさんがおっしゃったようなところをどれだけ自分の中で考えていくか。もちろん最後はどこかが判断するようになってくると思うのですが，まずは自分なりに考える必要があるというところは，先ほどから皆さんがおっしゃっていることとつながると思います。

あと５分ぐらいで休憩をとりたいと思いますが，Ｐさん，どうですか。

○参加者Ｐ　この課題については，自分でも考えが全然まとまっていない状態ですが，Ｍさんがおっしゃっていたことはすごく分かります。一時期出ていたときもあったのですが，生まれたときからここで生活していると，あることが当たり前で，考えたことがないと言ったら，そうだったと思います。なので，この課題を読んだときに，一番初めは，知らないということ，東海第二が立地していることに無関心なことが課題かなと思っていたのですが，こういう会議に参加するようになって，今は，そうではない自分の状況もある。でも，無関心の状況ではないのに，まだ切実になり切れていない自分がいるなというのがあるので，そこが課題なのかなと思っていました。自分が福島の人たちみたいな状況にならないと，そういう課題は考えているだけで，具体的に出てこないのかなと思っています。

○伊藤　ありがとうございます。会議に出る前は，あることが当たり前で，無関心だったかもしれない。会議に出たことによって，そこが変化した。色々なことを考えるようになったところもある。ただ，切実感はまだ持てていないかもしれないというＰさんの話ですが，すごい変化があったというところがこの会議のそもそもの目的で，今までは，もしかしたら切実感がまだ持てていないということを考えることもなかったのではないかなと。Mさんもここは同じなのでしょうけれども，この会議の目的はまさにそういうところで，どっちかの結論を持てるようになれば良い。でも，そこまでいかなくても，自分で考えること自体が非常に大きなことかなと，今お聞きしながら感じました。

Ｌさん，お願いします。

○参加者Ｌ　私は，福島の見学，東海第二の見学，両方参加させていただいたのですが，東海村の第二発電所は再稼働に向けて工事を進めている。福島は廃炉に向けての工事ということで，そこが根本的に違うなと思いました。

福島に行ったときに，廃炉のところは見たのですけれども，４号炉までが廃炉で，５，６，７号炉のほうは横目で見るだけで，そこもまだ稼働はしていないと思うのですが，再稼働に向けて，どのようになっているのかというのがすごく関心事で，一つ，ちょっと心残りのところはありました。

課題は何だろうということは，ともかく目の先は，避難経路の確保がまず第一だと思うのですね。前回の会議で，避難経路が確立していないということで，そこのところは，私はすごくショックだったのですね。原子力を抱えている東海村が，まして震災から10年ぐらいたって，その間にうろうろしていて，いまだに避難経路が確立していない。反対のための反対で，再稼働に賛成するから，避難経路を確立していないのだろうとか，色々な障害で，そういうこともあるのでしょうけれども，とりあえずは避難経路をまず確立すべきだと思いました。

○伊藤　ある以上は，ちゃんとそこを確保しておかないとまずい。前回おっしゃっていた話だと思います。

では，今までの議論を少し整理したいと思います。

東海第二が立地していることによって，地域の中で，どんな課題があるのだろうというところで，一番最初，Ｈさんからお話をいただきましたが，ある程度共生はできているのではないか。

ただ，安全性に関するリスクは，結果的に本当に必要なのか必要でないのかということになろうかと思いますが，それが地域の中で議論しにくい状況ということが課題ではないか。多分，このお考えとほかの方のお考えは非常につながるところがあって，それをするためには，Ａさんからお話があったように，自分でしっかり知識をつけて，自分で判断できるようにしなければいけない。福島を見に行ったことによって怖さも感じた。特に，帰還困難区域に入って，線量計が鳴ったこと，福島のような状況になる可能性はゼロではないということは，まさに自分でしっかりと考えることにつながったのではないか。それに限らず，知識をもっとつけて判断できるように，少なくとも，誰かが言っているからとか，ここに書いてあるからということで，それが自分の意見，考えにならないようにしようという御意見もありました。同じように，自分で考えることによって，賛成でも反対でもない人を減らしていく。

ただ，そこに行き着くまでにはまだまだというか，この会議でもそうですが，考える要素が多過ぎて，もともと余り考えていなかった，あることが当たり前だったというところから，こういう会議に参加することによって，関心は間違いなく前よりも出てきた。ただ，そうなったとしても，切実感はまだまだ持つことができていないことを感じるようになっ

たというＰさんの話があるように，最終的にそれぞれが，原発はどうしたほうが良いという結論を持てればいいけれども，まだその手前で，それを考えなければいけないということをここの場で持てることは大切だという話があったかと思います。

それに当たって，村に来る前と来たときのイメージが結構違うという話がお二方からありました。そのイメージをどう変えていくかというところも課題の一つになる。

これにつながるのが，原発への依存が高過ぎるのではないか。これは前回の「今後のまちづくり」でも，皆さんから御意見をたくさんいただきましたが，原発だけではなくて，例えば農業であるといったことで，この依存度を低くしていくことが必要ではないかという御意見。

福島のＡＬＰＳ処理水は一つの象徴で，Ｄさんがお話をされたと思うのですが，実際のことよりもネガティブな報道になっていたのではないかという御意見ですね。これは東海第二でも同じようなことが言えるのではないか。そういう意味でも，Ａさんがおっしゃったように，自分でしっかり見て，知識を得て，自分の中で判断するようなことを今後していく。これは原発のことに限らずなのかもしれないですが，そういうことが必要ではないかというのがこれまでの御意見かなと思います。

10分ぐらい休憩をとった後に，今ずっと出ている，何を考えなければいけないかというところについて，もう少し皆さんの御意見をいただきながら，２つ目のテーマはここにかなりかぶってきますので，引き続き，では，その課題はどうやって解決できるのかというところを議論していきたいと思っております。

改善提案シートの御記入をぜひお願いします。

〔休　憩〕

○伊藤　それでは，時間になりましたので，再開したいと思います。

休憩前に少し振り返りをしましたが，皆さんからいただいた御意見をちょっと整理したのですけれども，原発に対して賛成をするという人がいる。反対をするという人がいる。どちらでもないという人がいる。多分，ここが圧倒的に多い。１回目か２回目に話があったかと思います。

ただ，このどちらでもないには２種類あって，考えているのだけれども判断できない人と，そもそも考えていない人。両方とも賛成でも反対でもどっちでもないのですが，私は，こういう会議をやっているので，賛成・反対という意思を持つこともちろん大切なのだけれども，どちらでもないという人が圧倒的に多い中で，考えていない人よりは，考えているけれども判断できない，考えてみたいという人をどれだけ増やせるかということが大切ではないかと感じるのですが，皆さん，どう思いますか。

Ｖさん，いかがですか。

○参加者Ｖ　今日，前半の議論をずっと聞いていて，やはり同じようなイメージがあって，

地域の課題や東二の課題というと話が大きくなっていってしまって，東海第二があることで，自分にとって何か良いこと，悪いことがあったかと考えると，意外と思いつかないなと思っているのですね。東海村に東二があることによって，何か嫌な思いをしたことがあったかというと，あそこに恥ずかしい看板があって，友達が来たときに，指を指されて笑われたといったことがあったけれども，いいことがあったかというと，それもぱっと思いつかなくて，例えば医療費が高校まで無料とか，インフラがそろっているとかは，電源三法の給付金に基づくお金が潤沢だから，そういうのがあるという意味では，もしかしたら東海第二があることのメリットなのかなと。

よく考えると，そんなことを考えたこともなかったし，考えても思いつかない。ということは，この後，今出ていた，賛成，反対，どっちでもないという話をするときに，そういう判断のネタを持っていないのかなとちょっと思っていて，例えば，そのネタの中に，原発の安全性とか，何かあったら１Ｆみたいになってしまうでしょうとかあって，自分が身近に感じられるメリット・デメリットでないと，何かあったときに……。例えば，東海村であるかどうか分からないですが，東海村のものは買わないという人がもしかしたらいて，困っている農家の人がいるのかもしれない。そういう課題がぱっと出てこないと賛成・反対も言えないので，結局，悩んで，どちらでもないになってしまうのだなと。今日の前半が終わったところで，そこまで頭の整理ができたのですが，意外と何も考えてこなかったし，考えてみて何も思いつかないなと思って今日聞いていました。

○伊藤　今の御意見の関連で，ぜひお話しいただきたいと思います。

Ｄさん，どうぞ。

○参加者Ｄ　さっき，良いキーワードだなと思ったのは切実感で，これは多分危機感だと思うのです。例えば，自分の仕事が２か月後になくなって，給料をもらえませんとなったときに危機感が生まれて，では，どうするかというと，あれこれ考えて，収入を得ようと動くと思うのです。判断材料がないというのはあると思うのですが，そういう危機感がまだない人が多いのではないかなと。多分皆さん，そうだと思うのですが，危機感が生まれれば，何とかしようとしますよね。

以上です。

○伊藤　Ｄさんからも大切な一言，危機感がまだ持てない。持ったほうがよくて，そうしようとしたときに，先ほどから出ているように，個人が自分で知識を得ていくとか，何か考える，動くことが危機感を持つ手段になるのか，ほかの手段はどうなのか。

○参加者Ｄ　自分の生活に関わってこないのに，危機感を持てと言われてもなかなか難しいと思うのです。東海村の財政は，あと10年したら赤字になりますよとか，本当に自分に降りかかってくるような材料を皆で共有していくことが大事かなと。そうすれば皆動くのではないかなと思います。

○伊藤　もちろん，そこを自分で考えることも大切なのだけれども，行政がそこの情報提供をしっかりしていくことも必要だと考える？

○参加者Ｄ　僕はそう思っています。
○伊藤　Ｉさん。
○参加者Ｉ　今の話でちょっと分からないところがあったのですが，その危機感は何に対する危機感なのですかね。例えば原発の安全性に対する危機感なのか，それとも自分の生活の基盤がなくなってしまうという経済面での危機感なのか，その辺はどうなのでしょうか。
○参加者Ｄ　僕は村の財政だと思っています。先ほどどなたかおっしゃった，医療は無料といった話がどんどんなくなってきたり，そういうサービス面の劣化が徐々に見えてこないといけないのかなと。すみません。僕個人の意見です。
　以上です。
○参加者Ｉ　私としては，危機感というのは確かに本当に良いキーワードで，なるほどなと思って聞いたのですが，私は反対に，皆さん，原発がある危機感をある程度持ったほうがいいのかなと思いました。
　先ほど女性の方が言った，もう一つ，良いキーワードがあったのですが，昔の課題はすごく腹落ちしたというか，なるほどなと思ったのですね。なぜそう思ったかというと，最初に，東海第二が立地していることによる地域課題は何ですかというお題を出されたときに，私も全然思いつかなかったのですね。何だろう，何だろうと思っていて，色々考えたらちょっと思い浮かんだのです。だから，ああ，なるほど，何だかんだ言いながらも，私も無関心だったのだなと思ったのです。
　話が変わるのですが，私は，避難を前提としたまちづくりがされていないのが大きな課題だなと思いついたのですね。例えば，私は小さい子どもがいるのですが，原発事故が起こったときに，学校や地域は，親がいない状態でどのように避難して，どこに集まるとかというのは全然知らなかったのですね。もしかしたら妻などは知っているのかもしれませんが，私は全然知らなくて，この前の話し合いでもあったように，避難場所はどこですといった標識もないではないですか。そういうものがないのが課題かなと思いました。
　なぜそうなってしまうかというと，やはり安全神話があるではないですか。多分，原発は安全だと言い切って誘致したと思うのですね。それが足かせになっているのかなと。だって矛盾しているではないですか。安全だと言ってつくったのに，避難を前提としたまちづくりをしましょうと言えなくなってしまっているのかなと思ったのですね。その辺が課題かなと思いました。安全に運用しようとはしているでしょうけれども，どうしたってリスクがゼロになることはないので，そこは，地域の皆さん，世論やメディアにもちゃんと理解してもらって，危険だということを前提にまちづくりをするように動けば大分違うのかなと思いました。東海村に限らず，原発がある地域は，どの地域でもこういう気持ちでまちづくりをしていますと。アンケートにもあったように，高速道路への特別な道路，直結する道路とか，シェルターとかはあってもいいよなと普通に思いますよね。なぜそれができないかというと，やはり安全神話を崩すわけにいかないという何かがあるのですかね。

分からないですが，そう思いました。

以上です。

○伊藤　Ｔさん。

○参加者Ｔ　その危機感についてなのですが，村などからの情報発信が結構危機感の欠如につながっているというか，裏を返すと，安心を与えてくれているから，危機感を持てないという，すごく難しい問題だなと思っていて，例えば，地震があったときだけ，原子力発電所は安全ですよというのを出していたら，安全ですよという情報を与えているにもかかわらず，毎回毎回不安になるので，やめてくれよみたいなイメージになってしまうと思うのです。結局，何も言わないことで，イメージが上がっていくのではないかなと。そういう難しいことになっていっているのかなと思っていて，そこは本当に永遠の課題だろうなという気がしています。

いたずらに危機感を持つのはよくないな，毎日それにおびえて暮らすのもよくないのかなというので，ものすごくバランスが難しいなと思うのですが，今，危機感がなさ過ぎるのは課題かなと思うので，ちょっと上げるぐらいが正解なのかなと私は思います。バランスだと思います。

○伊藤　バランスということですね。

Ａさんに振った後に，ぜひ行政の方からも，さっきＩさんから出た安全神話があるかどうかを聞きたいと思います。

○参加者Ａ　そもそもみたいな話になってしまうかもしれないのだけれども，地域の課題はというのであったら，この地域はこのようになりたいのだということが定まった上で出てくることだと僕は思っているのです。東海第二が立地していることによる地域の課題は何かと言われるのだったら，この地域はこのようになってもらいたいなということがあった上で，でも，現実として，良いも悪いもひっくるめて，東海第二がここにあるよねと。さっき思い浮かべた，こうなってほしいなというときに，東海第二があることで問題が出てくることがあるので，それに対して，では，その問題をどうやって解決していくのかというのが，僕の中では課題かなと思っていたので，その先にしっかり知識がないと，どんな判断もできないし，どうなりたいかがないから無関心になってしまう。どうなりたいかということが分かった上で，何かあったときに，しっかり避難できるようにしなくてはいけないのだから，避難路をつくることも課題だよねという感じで広がってくるほうが良いのではないかなという気がするのですね。そうしないと，モグラたたきではないですけれども，あ，あれがない，これがないというのがどんどん出てきて，最終的には根本的なところに行かない。難しいですが，そう思っています。

以上です。

○伊藤　本当に難しいと私も思っています。理想的には，この20人弱の中で，どうありたいか，どこを目指すのかというところが定まっている。では，そこに向けてどうしたらいいか，何が課題なのかというのが理想的だと思うのですが，そうなると，東海第二の必要

性をまずある程度決めないといけない。そこを定めようとするだけでかなりの時間がかかるし，今回の会議のテーマとしては，賛成か，反対かということではないところを一つの基準に置いていますので，そうすると，Ａさんがおっしゃったように，自分としてどうありたいかというのは，色々な視点から議論することによって出てくるのかなと思ったのです。

もしかしたら，この中で，３回参加して，方向性が具体的にイメージできるようになった方がいるかもしれないし，逆に，議論に参加することによって，どうありたいかが定まらなくなってきて，すごく悩んでいるという方もいらっしゃるかもしれない。今回は，それは個人個人の中で感じていただいて，ただ，最後，提案するというところは，できれば今後はこの中で統一したいという思いでやっています。

では，さっきの安全神話はもともとあるのか，今でもあるのか，いや，ないのか，行政の方，いかがでしょうか。

○山田村長　安全神話はないと思うのです。私はこの間も，ＪＣＯの22年目を迎えて，職員への訓示で，安全に終わりはないと。常に安全第一ということで，原子力防災は村の責務なので，安全神話みたいな発想は持たないで，常に何かあると。事業者にも，安全が何よりも優先するのだということを，口を酸っぱくして言っているので，職員も，自分たちはそういう目でやっていかなければならないということで，そこは徹底しています。

村が情報提供というのは，あくまでも事実をちゃんと伝える。先入観とか，こうらしいみたいなあやふやなことは言いたくないというのがあって，情報提供は主観が入ってはいけないと私は思っています。ただ，科学的な事実も，事業所から入ってくるデータなどは情報になるので，そこの村の出し方は結構難しいところがある。一方で，メディアは，我先にということで，色々な情報を先に出してしまっているので，村民に正しい情報をいかに早く出すかというのが私どもの一番の課題だと思っているのですね。そこは，常に事実は何かを見極めた上でやろうと思っています。

○参加者Ｉ　ありがとうございます。そういう思想がないというのは分かるのですが，できた当初はどうだったのかなというのが気になるのですね。そのときは，もちろん東電のほうは地域の住民の皆さんに「いや，安全ですよ」と説明したはずですね。この辺，私もちょっと分からないのですが，行政のほうはどうだったのでしょうか。地域の皆さんには，当時，もちろん安全ですよいうことで説明したのですね。

○山田村長　原電を誘致したときの話は，私は今ここで分からないのですが，ただ，とにかく原子力は，東海は最初の研究所もできたし，発電所も最初にできたので，常に最初，最初だったので，前例がないですから，そういう動きの中で，それを受け入れていったというのが正直なところで，それが安全神話にだんだん染まっていったのかもしれないですが，最初のうちは知識もなかったので，そういうものを素直に受け入れた。だんだん事故やトラブルがあって，自分たちも知見を上げていく中で，冷静に見られるようになった。そこは時代が変わってきて，少し変化したと思います。

○参加者Ｉ　すみません。もう一つ聞きたいのですが，では，今現在，行政としては，地域の皆さんに「原発は危険性があります」と堂々と言えるのですかね。広報として，今，どういうスタンスで伝えているのか。安全だ，安全だと言うのか，いや，危険な……。
○山田村長　いや，安全だ，安全だとは言えない。
○参加者Ｉ　言えないですね。
○山田村長　ええ。ですから，福島の事故を踏まえて基準が強化されて，今，安全性が向上するための工事をしている。安全対策工事ではなくて，安全性が向上される工事だということで，そこもきちんと言葉を使い分けて言っています。さっき言ったように，安全対策は常にゼロベースというか，そこはきちんと見極めた上で対応しますので。
○参加者Ｉ　ありがとうございます。
　今回，なぜ私がこれが気になったかというと，この前，福島の原発を見に行ったときに，東電の人に聞いたのです。この福島の原発事故は，今となっては防げた事故だったと言われているではないですか。ある意味，人災だったと。「東電ほどの会社がなぜこんなお粗末な事故を起こしてしまったのですか」と聞いたときに，担当者が言ったのを要約すると，「原発をつくるときは，安全だと言い切ってつくった。だから，もし何か問題点が見つかったとしても，そこは簡単に改善できなかったのです。それを改善してしまうと，いや，安全だと言ったから俺たちは許可したのに，おまえら，おかしいではないかと地域の人やメディアに突っ込まれてしまうのが嫌だったのかもしれませんね」みたいな感じだったのですが，今の村長の話を聞くと，そういうことは今の行政にはないという感じで良いのですかね。
○山田村長　はい。
○参加者Ｉ　ありがとうございました。
○伊藤　今のＩさんの話は，あらゆることに共通するところがあるのではないかと私は思っていて，これを議論したら，今まで言っていたことが壊れるおそれがあるみたいになってしまう。だからこっちの議論はしないようにしようと。
　さっきＬさんがおっしゃった避難経路の話も同じかもしれませんね。避難計画を策定することが議論の前提なのではないかという考え方で，皆さん方はそのつもりで議論に参加されている。あらゆることを考えておかないといけない。
　Ｈさん，どうぞ。
○参加者Ｈ　危機感のところなのですが，賛成・反対では結局平行線になってしまうので，何とか歩み寄りが必要で，本当は，そのような議論ができれば良いなと思っているのですけれども，それについて危機感と言ったら，私が心配し過ぎるのかもしれませんが，石油が使えなくなってしまったらどうしようというか，気候温暖化などで，中東からエネルギーが来なかったらどうしようといった視点からも危機感を考える必要があるのではないかなと。そういうときに本当に間に合うのかということで，全面賛成，全面反対というわけにいかないのではないかなと。原子力については，私はそう思っています。

以上です。

○伊藤　ほかのエネルギーを考えた上で，では，本当に間に合うのかという視点も一緒に入れながら考えていく。この辺も危機感につながっていく話だと思います。

Ｂさん，いかがですか。

○参加者Ｂ　皆の意見とほぼ同じなのですが，今の課題というと，東海村の住民は，原子力発電所が近くにあるのに，原子力発電所に対しての認識がちょっと低いところがあると思うのです。だから，今回のように，福島の見学や発電所の見学をもっと一層増やすとか，原子力発電所はこういうものだというアピールを常に続けなければ，安全対策や避難経路に関しても，住民目線の意見などは出ないのではないかなと思っています。結局，一人一人の住民の認知度が上がることで，解決策ではないですが，問題点が色々出てくるのではないかなと思っています。

以上です。

○伊藤　さっき，そのために場をつくりたいという村長さんの話がありましたが，行政として，いかに正しい情報を早く伝えられるかという話はここにつながるのかなと思うのですけれども，これは個人意見で，すごく難しいことだなと。何をもって正しい事実かということも難しい中で，自分で知識を得るときに，情報は調べればたくさん出てくる。右の情報，左の情報，真ん中の情報，たくさんある。この中で何が事実なのかというのは原発に限らない話なのですね。これはどこがやるか。まず行政の役割として，正しい知識を早く伝えられるようになるのだろうか。受ける側からすると，リテラシーなどがありますし，その情報をちゃんと判断できるのか。何か御意見，どうでしょうか。

Ｑさん。

○参加者Ｑ　話を繰り返して言いますが，個人的意見として聞いてください。

私は，先ほど皆さんの話を聞いていまして，ありとあらゆる意味で当事者だなと感じていました。というのは，震災のとき，東海第二で働いており，先週，福島に見学に行ったのですが，以前，福島のほうに勤めていたことがありました。あと，実は，うちの家内の両親が大熊出身でして，先ほどから皆さんの話を聞いている中で，故郷をなくしてという話があって，最初のころ，そういうところがあったのですが，もう10年たちまして，今，ほかの地域で暮らしていて，そういうことは全然ないです。逆に，新たな経験ができたというので，故郷に対する部分は大分少なくなりました。また，知っている方の中に，大熊，富岡へ戻っている方もいらっしゃいます。そういう方もいるので，かわいそうだとかという状態ではないと私は見ています。

何が安全かという話があったのですが，私は先ほど，東海第二に勤めていましたと言いました。実は東海第二に勤めていて震災がありました。実際，東海第二は，地震動を受けても無事に冷温停止しております。あの地震動を食らって，壊れた設備も多少ありましたが，正直，それは直せば再稼働できるものだと思っていました。設計上の計算では，ここまで耐えられるというのはありますが，実際に地震を食らっても大丈夫なプラントなので，

今，安全性向上の工事をやっておりますが，これで問題があった部分を直せば，どこの発電所でもそうなのですけれども，大丈夫なのかなと思っております。私も今，そういった形の工事をしております。

あと，教育という話が少し出てくるのですが，今，会社で教育をやっておりまして，22年前，1999年９月30日，ＪＣＯがありまして，そのときの話が教育の一環で出てくるのですけれども，そのときによく聞くのですが，「ＪＣＯの事故で放射能が漏れましたか。それとも漏れていませんか」と聞くと，半数ぐらいの人は分かっていないのです。放射能が漏れたと言う人もいれば，放射能は漏れていない，ただ放射線が出ただけだという話なので，その辺の情報は繰り返し，しっかり伝えていくべきだと思います。そうでないと，要らない風評被害がどんどん出てくるのかなと思っております。なので，行政としては，必要な情報はしつこいくらい言わないといけない。黙っていると負けですね。声の大きい方に押されてしまうという部分がありますので，伝えるべきことはしっかり物申すという形が一番良いのかなと思います。

もう一つ，要望なのですが，安全性の話です。先週，１Ｆに聞きに行きまして，「何が悪かったのですか」と言ったときに，「ディーゼル発電機，電源設備が地下にありました」と。確かにそのとおりだと思います。私も１Ｆにいたころ，なぜここにあるのかなと思っていました。新しいタイプのほうは原子炉建屋のほうに入っていますので，気密性が高いのですが，１Ｆではそんな形で，低い取り組みでしたね。

それと，私は色々な発電所に行っていますが，電力会社が地域との融和をとれているかどうかが一番と思います。今行っている発電所さんは，発電所を立地するときに，調査して，過去の地震で，ここまで津波が来ましたというのをきっちり押さえてあります。地域に根づいたという話だったのですが，それを踏まえて，この高さ以上のところに設置しようという話で，最初の建設のとき，そこから始まっております。なので，信頼ある建設会社で，そこの地域にしっかり根づいているかどうかが一番かなと，私は個人的に感じております。

話がちょっと飛びましたが，以上です。

○伊藤　今，最後にＱさんがおっしゃったので，東海も，電力会社と地域の信頼関係はあるのか。

○参加者Ｑ　私はあると思いますね。

○伊藤　これは，Ｈさんの共生できるという話とつながるところかなと思います。

もう一点，途中で教育の話になった。Ｑさんが教えた人の中でも，放射能が出ている，出ていないと。これは原電の社員でしょうか。

○参加者Ｑ　いや，違います。今，うちの会社で安全文化教育というのを実施していまして，その中でチェルノブイリやＪＣＯの話が出てきて，そのときの内容です。「原子力に携わる方だったら，状況を聞いたら，ある程度判断できるようにしなくては駄目だよ。マスコミから色々な情報が出るのに惑わされないように」というのは日ごろから言ってあり

ます。
○伊藤　関連会社ですね。それでも，先ほどのように，繰り返し，繰り返し伝えていかないと，事実が正しく伝えられないということでしょうか。
○参加者Ｑ　事実を伝えられないのと，あとは，繰り返しでレベルを上げていく。
○伊藤　ありがとうございます。
　Ｎさん，今までの話を聞かれていていかがですか。あることによる課題。
○参加者Ｎ　福島原発へ行きまして，よくあの惨事でおさまったなというのが第一印象です。というのは，２号機の水素爆発によって３号機の外壁の窓が開いたのですね。それによって３号機が爆発しなかったという説明を受けまして，ぞっとしたのです。
　あとは，５キロ圏内の，今も閑散とした状況の中で，ああ，あのようになったら大変だなというのが私の第一印象ですね。
　今回の立地している課題ですが，例えば，一般企業で事故が起こればニュースになりますね。でも，原発が全国に立地する中で，震度３以上の地震もしくは火災などがあった場合には，発電所には問題がありませんというニュースが流れるのですね。ですからあれは，全国の皆さんの不安と，放射能と言いますか，放射線と言いますか，そういう目に見えないものに対する不安を払拭すると思うのです。ですから，報道関係においても，そういう不安は全員が持っているのではないかなという印象を私は受けました。ですから，この課題については，私は不安というものを一つ挙げたいなと思っていました。
　以上です。
○伊藤　地域全体の漠然とした不安がある。それを解消するために皆で議論する。例えば避難経路の話をする。そういうものを解決していくことによって，不安を払拭できるのではないか。
　Ｎさんがおっしゃっていた。地震のたびに必ず，東海第二は異常なしと言う。この報道が出ているほうが不安払拭につながるというお考えですか。
○参加者Ｎ　そう思います。それと反対に，逆に不安をあおっているのではないかなと。
○伊藤　毎回毎回出てくるから。両面があるということですね。ありがとうございます。
　今まで，東海第二が立地していることで，どんな課題があるかということで，皆さんから色々な御意見をいただいています。
　東海第二原子力発電所そのものが抱える課題。あることによる課題というよりも，そのもの自体。これは，さっきＱさんからお話があったように，安全面のリスクはさっきから出ている話だと思います。何か起きたときに，福島のような状況になる可能性を持っている。そういうリスクがある。Ｑさんからあった，福島第一のときには，電源が地下にあって，電源喪失したのが一番大きな問題だというところですね。
　こちらでほとんど集約されてしまうかもしれませんが，一応お聞きしたいと思います。立地していることによる課題というよりは，東海第二そのものが抱える課題をある意味で感じられますか。あることがどうかというよりも，東海第二そのものによる課題がありま

すか。ここが課題だと感じられているか。

Ｉさん。

○参加者Ｉ　前も言っていたのですが，東海第二は古いのですね。それは新しい世代の原子炉にしたほうがいいのではないかなと。設備が古いところが課題なのかなと思いますが，あとは私にはちょっと思いつかないですね。

あとは，あるとすれば，レベルの高い技術者がいるのかというところが気になりますね。何か不測の事態が起きたときに対応できる人，マニュアルがなくてもある程度事故を防ぐ，もしくは軽減させるような措置がとれる人がいるといいなと思いますね。

以上です。

○伊藤　古い設備の安全面や人材不足について，Ｄさん，どうですか。

○参加者Ｄ　人材の育成はどこの企業でも同じだと思います。

普通の企業ですと，設備が古いと新しくしていくのが一般的なのだろうと思います。一般企業だと，部分的に修理をしていくのがいいのか，全部新しくしてやるほうがいいのかというのをてんびんにかけながら選択していくのかなと思いますので，東海第二もそのてんびんにかけて，どちらを選んでいくかというところが決まるものだと思っています。

以上です。

○伊藤　Ｌさん。

○参加者Ｌ　危機管理なのですが，東海第二発電所は賞味期限切れになっていて，でも，国のあれで，10年ですか，延びたということで，今，原発は再稼働に向けて動こうとして，原発の社員も一生懸命やっているのですね。

普通の何も考えていないという人でも，安全ではないということは何となく認識している人が大多数ではないかと思うのです。そういう意味では，安全とリスクの信頼関係をもっと築くことからやらないといけないのかなと。

それと，そもそも原発は，全国の９電力がお金を出し合ってできたということを聞いています。要は，日本の原子力発電所の実験台と言ったらおかしいけれども，そのような形で原発ができたという話を聞きました。

○伊藤　９電力が出資をして東海原発ができたということで，川又さん，事実関係として，その辺，御説明いただけますか。

○川又課長　防災原子力安全課の川又でございます。

日本原子力発電株式会社は，今ある東京電力をはじめとする，全国にある９電力会社の出資によってつくられた会社というのは事実だと思っております。

○伊藤　それは，原発をつくるために会社をつくられたということですか。

○川又課長　日本原子力発電株式会社は，原子力発電の専業会社ですので，言葉を裏返せば，原子力発電を行うためにつくられた会社だったのかなと思っておりますが，その生い立ちというか，その背景までは，私は，その会社のことについて，ちょっと不勉強のところもありまして，なかなか明確にお答えできないところがあるというところでございます。

以上です。
○伊藤　ありがとうございます。
ほかに。
Ｔさん。
○参加者Ｔ　古いとか人材ということと近いのですが，10年ぐらい動かしていないものをまた動かすというところに一番課題があるのかなと私は思っています。たまにニュースでやっているのですが，動かした初めなどに，軽いトラブルみたいなものが結構起こっていたりするので，10年ぐらい動かしていなかったら何かあるのかなというのと，人材，特にベテラン，信頼できる人がだんだんいなくなっていく中で，動かしていくというのが課題になるのかなと私は思っています。
○伊藤　ありがとうございます。
Ａさん。
○参加者Ａ　今のお話と一緒になることになるのですが，聞いた話がちょっと出ていたので，そういったところで私も共有させてもらいたいなと思ったのは，随分前に，このかいわいでは割と有名な大手の原子力メーカーさんの結構年配のＯＢの人たち何人かと酒を飲んだり，色々させてもらった経験が何回かあるのですが，そのときにまさに言われていたのが，「10年動かさないと本当にまずいよ。俺はリタイアして随分たっている技術者なのだけれども，では，もう一回動かそうとなったときに，これは本当に大丈夫なのかな」というのと，あと，人材ですね。「ずっと止まっているので，今，志して新しく入ってくる人たちは，実際に動かしてどうなるとか，こんなトラブルだということは身をもって体験できていない。マニュアルでしか分かっていないので，それはとてつもないリスクだと思う」という話，この２つをされていたのは，そのものによる課題のところなのかなと思います。
あと，そのものの課題ではないかもしれないですが，さっきも信頼を得ることが課題ではないかなという話があったのですけれども，私も本当にそう思っていて，繰り返すようですが，帰還困難区域に入った途端に線量計が鳴ります。福島第一の100メートル前で，持っている市販の線量計は振り切ってしまって動きません。でも，本当に目に見えないから，そこに行っては駄目だと教えてもらわなかったら全然分からないですよ。だからすごく怖いと思う。だからこそ，目に見えないものを扱っている人たちは信用とか信頼しかないので，それをどう我々住民に提供してもらえるのかなと。賛成，反対，いっぱいいると思うので，それぞれの知識レベルと言うと上から目線になってしまうのですが，僕も全然分からないですけれども，それに応じて，ちゃんと説明をしていく。さっき丁寧な説明という話もありましたが，働いている従業員などからすると，そういうのが課題なのかなという気がしますね。
○伊藤　ありがとうございます。後半のほうですね。本当に目に見えない。そういう恐怖があるからこそ，信頼が成り立っていないとついていけない。だからこそ信頼関係を築い

ていく。信頼関係を築くためには，今のお話のように，ちゃんとした技術をしっかり伝えるということで，自分たちはその技術をしっかり自分で取得する努力をしていく。今，この両面の話が出てきたところかなと思います。

前半のほうは，本当は原電の方がいれば一番いいのかもしれませんが，稼働していない期間が長いことによるトラブルの不安。

Ｄさん。

○参加者Ｄ　先ほど突然当てられて，ちょっと答えられなかったのですが，ぱっと素人的に思いつくのは，今，西日本を中心に，稼働している原子力発電所が何基かありますね。だから，当然考えてはいると思いますが，そういったところに出向いて，あそこで感覚を取り戻してもらえたらいいなと。行く人は生活も変わって大変でしょうけれども，動いている原子力発電所で感覚を取り戻してもらうみたいなものもいいのかなと思います。今思いついたので，ちょっと補足です。

○伊藤　ありがとうございます。

Ｑさん。

○参加者Ｑ　稼働していない機器ですが，再稼働する前に一回，総点検に入ります。総点検に入って，しっかり分解するものは分解する，点検するものは点検するという形で，総点検してから再稼働という形になります。そのためのちょっとした点検を行うような形になって，それをクリアして再稼働になるのかなというのと，あと，人の問題なのですが，やはりこれは切実な問題になってきまして，震災後，作業員さんの数が３割ぐらい減っております。違う業界に転職してしまった者もおりますので，その辺，もう一回見直しながら，教育訓練しながらというのが今後の課題で，うちでも課題になってきています。

以上です。

○伊藤　ありがとうございます。稼働していない期間が長いことへの対応として考えるのは，再稼働の前に総点検を行っていく。ただし，人材というところに課題がある。震災で作業員がかなり減っているというお話がありました。

このほかに御意見のある方いらっしゃいますか。

Ｒさん，今までの話を聞いていて，もし御意見があれば。

○参加者Ｒ　セキュリティーについてなのですが，福島やここのものを衛星画像で見られるようになっているのですけれども，それはスクランブルとかをかけられないのかなと。福島に至っては，事故当時の爆発した状態のものが見られたのです。なぜか，その画像がうちにあるのですが。行ったときに，それを聞きたかったのですが，忘れてしまって。地上は物すごく厳しいではないですか。入れない。でも，上の画像はざる状態で，見放題なのですよ。

○伊藤　それはGoogleマップの類いですか。

○参加者Ｒ　そうです。アメリカなどだと，重要なところは見られなくなっているのですね。色が入っていたり，飛んでしまって別のところに行くとかとなっているのですが，日

本は，そこら辺のものは全部見られるようになっていて，かなり近くまで寄ることができて，勤めていた夫が「あ，これは俺の車だ」と言っていたのですね。そういうのは見られなくすることはできないのですかね。一度，ミサイル攻撃の標的になっていたというのを聞いたことがあるのですが。

○伊藤　マップだったかもしれませんが，私の認識では，安全基準が改訂された後は，テロ対策が非常に重要になったから，例えば，敷地内に何があるのかという目印は一切なくしています。そういう観点で考えたときに，Googleマップで見られるということで，余り大っぴらにできないだろうと思っていたのですが，それに答えられる方がいらっしゃいますかね。

○参加者Ｉ　正確には答えられないですが，恐らく衛星は何千とか上がっているのですかね。だから，今さらその情報を見られたところで，そんなに影響はないのかなと思うのですね。日本の防衛やテロ対策は，もちろん見られることを想定してされていると思いますね。例えば，イージス艦を配備したりして，情報は各国やテロリストにも渡ってしまっているという前提での対応をしているのかなと思うのですが，確かにGoogleマップとか，全部見えてしまいますものね。

○参加者Ｒ　全部，詳しく見えたのですね。

○参加者Ｉ　でも，分からないですけれども，見えているようにつくっているのではないですか。これが軍隊の基地だったらちょっと違うかもしれないですが。私は分からないです。

○参加者Ｈ　いや，実は私も数日前，Googleマップで福島のサイトを見たりしたのですが，どうしてこんなにというぐらい，妙に解像度がいいです。ほかのところ，我々のところからは車も大して見えないのですが，なぜあそこだけ……。そういうニーズというか，心配する人が多いから，そういうことをしているのかもしれませんが，私も非常に不思議に思いました。物すごい解像度で，車がはっきり，物すごく細かく見えるところまで見えたので，実は逆に驚きました。

以上です。

○参加者Ｔ　何か対策はされているのです。ただ，対策を言ったら終わりなので，余り言えないというか，言ったら何かされるみたいな話だったと思うのです。再稼働に向けて，確かテロ対策は全部されている。されないと再稼働はできないという話ですが，具体的に何をやっているかというのは言えない。出ますけれども，逆に怪しいみたいな情報だと思いますね。さすがに考えて対策されているのですが，我々は知ることができないというのが回答だと思っています。

○伊藤　これは多分，事実関係で何かしらのものがあります。次回までに調べておきたいと思います。

では，後半を振り返りたいと思います。

まずは休憩前から引き続きの話を進めてきました。今の考え方として，原発に賛成する

人，反対する人，どちらでもない人がいて，どちらでもない人の中には，考えているけれども，判断できないという人もいるし，いや，そもそも考えていないという人もいるだろう。これは仕方がない。良い・悪いという話ではない。

では，考える人を増やそうとするときに，どういう手段があるかというと，１つは，判断材料がまだまだ少ないのではないか。これを解決するためには，行政がいかに正しい事実を絶えず伝えられるか。言うのは簡単ですが，非常に難しい面がある。だからこそ，結果的には，個人個人，自分としても，その情報は事実かどうかということも含めて知識をつけるように努力していこうと。

もう一つは，今日，キーワードとして出てきたのが，切実感，危機感。これを持つことによって関心を持つことにつながる。関心を持っている先に，もしかしたら，賛成なのか反対なのかという考えも出てくるかもしれないけれども，まずは考えることが大切なのだと。

では，この危機感はどうやって持てるのか。

１つは，財政に対しての危機感という話がありました。そもそも原発があるということの危機感。ただし，煽らないことも必要ではないかという御意見がありました。

もう一つ，エネルギーという視点。今，自分たちの生活で電気を使っている。そういう生活ができるかどうかという観点の危機感。

少なくとも，色々な視点から切実に思うことが，結果的に関心を持つことにつながるのではないか。

ここからは私の考え方が入ってしまうのですが，皆で関心を持ちましょうと言って持てるものではない。この空間の３時間は，考えなくてはいけないから，みなさん考えてくれると思いますが，出たら自分の生活が忙しいし，なかなか難しい。私も同じです。

考えなくてはいけないと思って考えているよりは，自然に考えるようになっていくような仕掛けが必要になってくるのかなということを，皆さんの意見を聞きながら私は考えました。もしかしたら，この場から出たら，すぐに変わってしまうかもしれないけれども，少なくとも，こういう場に来ることによって変化があるというのは，これまでも皆さんの御意見でもあったのではないかと思います。

もう一つ，では，東海第二発電所そのものが抱える課題は何かあるだろうか。安全面がたびたび出てきました。安全面でのリスクがある。前半の話であったように，リスクを前提としたまちづくりを考えていかなければいけないのではないか。

もしかしたら過去に安全神話があったかもしれない。先ほどの村長の話のように，少なくとも今はない。今，原電は安全性の向上のための工事をやっているけれど100％安全ということを言うためのものでないというお話がありました。まさに今日，そういうことが共有できていると思っているのですが，少なくとも安全は完璧ではないというところを前提として考えていく必要があるだろう。

もう一つ，原発が古いという話。古いからどうにかしなければいけない。Ｉさんのお考

えのように，建て替えるという話もあるし，ほかの方の御意見では，仮に再稼働したとしても，20年後，いずれは廃炉になるから，なくなっていくことも考えながら，まちのことを考える。この先にはこういった考え方が出てくる。

もう一つ，10年ちょっと稼働していない。これは長い。それで何かトラブルが起きるのではないか。今のところ，再稼働の前に，しっかり総点検をすることで対処しようというお話がありました。

ただ，人材の部分で，震災後，作業員が３割減少している。この人材をいかに確保するかということが課題ではないか。稼働しているところに行くことで，トレーニングができるのではないかというお話がありました。

こういったところが，東海第二そのものの課題と言えるのではないか。

最初のほうでＡさんからお話があったように，ここで感じる課題を解決する先の皆さんが考える姿，村のあり方は，もしかして若干違いがあるかもしれない。そこを共有するのはすごく時間がかかるので，まずは皆さん自身がどういう東海村でありたいかという中で，今日のような東海第二があることの課題，東海第二そのものの課題ということをこの後，考えていきたいと思います。

５分ぐらい休憩をとらせていただきますが，最初にＨさんから議論しにくいというお話がありました。どうすれば皆で議論できるのだろうか。最後にぜひ御意見をいただきたいと思っています。今までに出ているところとかなり近いかと思うのですが，原発を再稼働したほうがいい，しないほうがいいといったことを，どうしたら皆で議論できるのかというところを最後にしたいと思います。

あの時計で22分ぐらいまで，５分間だけ休憩をとらせてください。

〔休　憩〕

○伊藤　それでは，残り20分ちょっとですが，再開したいと思います。

改善提案シートの御記入も随時進めていただければありがたいと思います。

最後，どうすればこういったことをみんなで議論できるのだろうかという視点になります。

先ほど，賛成・反対まで考えて議論するべきというお話もあったかと思いますが，ただ，賛成・反対の考えに行かなかったら駄目だということではなくて，どちらでもない人たちが多いので，考えるということが大切というご意見が非常に多くありました。どうすればできるのでしょうか。

Ｌさん。

○参加者Ｌ　どうすればできるかというのはちょっと分からないのですが，いずれにしても，こういう話し合いの場は，賛成の人ばかりとか，反対の人ばかりという集まりが，大なり小なり，きっとあると思うのですね。でも，ここの場のように，賛成も反対も全部ひ

っくるめた話し合いの場は今回初めてのような気がするのです。私も，ここに初めて参加するときに，賛成に偏っていくのか，反対に偏っていくのかというのが一番の不安でしたが，こういった状態で，賛成も反対も乗り越えて，皆で話し合える場という機会がもっとあったらいいなと思います。

それと，何年か忘れてしまったけれども，チェルノブイリの事故があったころ，東海村自体，原発反対を大っぴらに，声高に叫べない世の中だったのですね。そのときに常陸太田の市民集団のチェルノブイリの悲劇の劇を東海村でやったことがあるのです。そのときも物すごい圧力で，結局，その劇は成功をおさめたのですが，私個人としては賛成でもないし，反対でもない。ただ，こういう事故が起こったらこのようになるのだ，私たちはそのリスクの中で生活しているのだということを考えてほしいということでその劇をやったのですけれども，そのときも私は完全に原発反対派みたいなところに位置づけられた。だから，原発のことを話すこと自体が，賛成か反対かの位置づけになってしまうというのはすごく怖いなと私は思っています。

○伊藤　ありがとうございます。レッテル貼りという問題ですね。そのつもりはないのだけれども，レッテルを貼られてしまう。ある意味では単純化したいと言いますか，賛成か反対か色分けをしたがる部分。でも，色分けできない人たちのほうが圧倒的に多いし，その中で考えなければいけないということで，さっきＬさんが言われた会議でも同じようなことがある。

ほか，いかがでしょうか。

では，Ｉさん。

○参加者Ｉ　質問なのですが，「みんな」というのはどこまで入るのですかね。例えば一般の人なのかとか。

もう一つ，「議論」というのも，今回の会議みたいに，意見を言い合うだけなのか，それとも何かを決定するためのプロセスなのか，どうなのでしょうか。

○伊藤　ここで私が書いた「みんな」は，東海村住民皆をイメージしました。「議論」というのは，少なくとも賛成か反対かの決定ということではないのですけれども，今回，最後に提案書をつくるのですが，書いてあることには皆の合意を得たいという意味の議論と考えました。

Ｄさん。

○参加者Ｄ　例えば東海村の住民が10人だったら，10人集まってくださいと言って，皆で議論できますね。例えば30万人ぐらいの都市だったらどうでしょうか。30万人皆で議論できますかというと，多分できません。東海村の大人の方は多分３万人か２万人ぐらいなので，こういう会議で，長い期間をかけて小さな会議をいっぱいやれば，全員で議論できなくもないと思いますが，それは現実的ではないというところから，この会議の場が設けられていると思いますので，すなわちこの場は，東海村の皆で議論できているという意味の場かなと思っていました。

以上です。
○伊藤　Ｔさん。
○参加者Ｔ　どうすれば皆で議論できるかというのは，余り前向きではないのですが，肩書みたいなものが物すごくついて回る状態では絶対議論できないなと感じていて，例えば，原子力関連の人が話すと，原子力関連の人の意見みたいになってしまいますし，それなりに地位がある人が言うと，すごく政治的な意見になってしまう。肩書みたいなものがないような状態をうまくつくらないと議論できないなというのを物すごく感じます。マスコミが来ると，自由に意見が言えないのではないかなとかあるから，そういうのが課題というか，大きな障害だなと思いました。
○伊藤　今回，そういう不自由さを感じましたか。
○参加者Ｔ　いや，そうは感じていないです。初めに行くときには，どうなのかなというのがあったのですが，特に何もないです。
○伊藤　Ａさん。
○参加者Ａ　話がちょっとそれるのですが，皆さん，トランジション・タウンというのを聞いたことがある方がいらっしゃるか分からないのですけれども，イギリスで始まって，まち単位で，自給自足でやっていきましょうと。外に頼らず，まちの中で，それこそ小さな発電所をつくってみたり，相互扶助のやり方で，まちの中でしか使えない通貨を発行してみたり，色々なことをやっています。
先日，神奈川のトランジション藤野で話を聞いてきました。その人の話を色々聞く中で質問したのです。この間ちょっと話しましたが，郷土愛みたいなものについて話を聞いてみると，そこのまちには色々な人がどんどん移住してきているし，郷土愛というか，皆で色々やっているのですね。それはどのようにやって醸し出されているのかということを聞いたのですが，その人も出身は全然違います。その人もしばらく考えられて，その人が言われたのは，明確な回答になっているかどうか分からないのだけれども，地域のことに色々関わっていくことだと思うという話だったのですね。色々なことに関わっていく中で相互理解が深まっていって，結果として，こんなことをやりたい，あんなことをやりたいといった問題について，皆の意見の調整がつくようになったといった回答だったのです。
翻って，どうしたら皆で議論していけるのかということですが，いきなり，原発に対して，どう思いますかと言うと，さっきお話があったみたいに，主催者側が半分入って，賛成と。そこに集まる人はそういう人たちだと思うのですが，そうではなくて，では，どうやったら議論できるかというと，原発のことではないところで，我々は東海村……。僕だって東海村以外のところから越してきているし，今回だって，1,000人にはがきを出して，十何名の方しか参加しますと言ってこないわけだから，まとまらない話になってしまって申しわけないのですが，ささいなことでもいいので，教育のこと，幼稚園の統廃合のこと，色々なことについて，こうやって皆で話し合える場がもっとあったらいいのではないかなと。もちろん，来る人，来ない人がいるでしょう。最初は２，３人かもしれないけれども，

そういったところから，だんだん人数が増えていったりしていけばすごく楽しいというか，明るい未来がそこの先にあるような気がするのですね。

以上です。

○伊藤　ありがとうございます。原発以外のことも話し合うような雰囲気ができてくると，その中で，原発があったとしても，賛成だったら駄目だ，反対だったら駄目だみたいなことにならなくて，自由な議論ができるようになるだろうという御意見。

では，行政がやるほうがいいものなのか，自分たちでやるか，もしくは企業がやるか。

Ａさん。

○参加者Ａ　僕は，結論からすると，今回みたいに，行政はお金だけ出してくれればいいのではないかなと思います。こんなきれいな場とか，しっかり場を提供してくださって，それを告知してくださって，そこに集まってくる方がいて，伊藤さんを呼んでもらって，けんかにならないように，うまくファシリテーションしてもらってというのが一番いいのではないのかなと思いますね。

○伊藤　では，先にＤさん，お願いします。

○参加者Ｄ　さっき言っておいたのですが，今，Ａさんがおっしゃったみたいに，僕もこういうやり方に対して賛成です。

あと，そもそもこの“自分ごと化”会議を，今，東海村でやっていることすら知らない村民の方が結構いるのではないかなと思っていて，先日もほかの人と話をする機会があったときに，知らないという人もいたので，そもそもこの会議をもうちょっとＰＲしたほうがいいのかなと思います。

以上です。

○伊藤　先ほどの，いかに正しい伝え方をするかということかもしれないですね。

Ｔさん。

○参加者Ｔ　私も行政かなと思います。行政がやらないとすると，原子力に関わる事業者さんとか，あとは市民かなということになるのですが，多分，その２つだと，大体賛成側，反対側みたいな感じになってしまうので，行政はどっちかというのはさておきまして，一番いいのは行政なのかなと思っています。

○伊藤　ありがとうございます。

ほかに。

Ｉさん。

○参加者Ｉ　どうすれば皆で議論できるのかというところなのですが，私の考えでは，原発というのはテーマが大き過ぎて，切り取り方次第では色々な議論になってしまうと思うのですね。例えばエネルギーの問題なのか，環境の問題なのか，経済の問題なのか，安全保障なのかで賛成・反対と分かれてきますし，あと，もう一つ，私も仕事で議論する場面が多いので，感じることがあるのですが，前提とするリテラシー，知識や情報がある程度共有されていないと議論にならない場面が多いのですね。そういうところで非常に難しい

なと思います。

あとは，この会議に参加した初日にも話したと思うのですが，この会議の場がどういう意味を持つのかというのは非常に興味があって，さっきも言ったように，原子力とか多岐にわたる色々な情報を，知識がない状態で話し合っても，果たして真理にたどり着くのかなと思ってしまうのですね。民主主義ですから，民意を反映するというのは当然大事だと思うのですが，それにしてもテーマが大き過ぎて，逆に，余り民意を意識してしまうのも怖いなと私は感じてしまいますね。でも，こういう場があるというのは非常に建設的ですし，いいことだなと思いますが。

以上です。

○伊藤　ありがとうございます。

１回目で言ったかもしれないのですが，ここで出た提案を取りまとめたものは民意ではないというのを大前提にしています。そもそも，ここに集まる20人ぐらいをもって民意ということを想定しているわけではない。

では，何かというと，無作為抽出されたということで，選ぶ段階においては，誰に行くか分からないという状態で手を挙げてこられた方の議論によって取りまとめられたもので，それ以上のものではない。ほかの国では，民意を図る手段として，こういう方式を使っている国もある。大きく違うのは，選ばれて参加してくる皆さんのところで，男女比や世代，職種などまで合わせ，民意の代表としての結論を出す。我々がやっているのは，選ぶところは無作為ですが，議論への参加は住民の意思に委ねている。

ほかに。

Ｖさん。

○参加者Ｖ　こういう機会があるのはすごくいいと思っていて，賛成・反対の二項対立の説明会などは，私も何回か参加したことがあるのですが，すごく不毛な議論というか，反対派の人たちはすごく汚い言葉で事業者を非難するし，では，事業者はちゃんと説明しているかというと，それが届いていないから，そういう汚い言葉になっているのかもしれないし，そうはいっても，正直，余り興味ないというか，中立の立場から見ていると，「何をしているのだ，この人たちは」と思ってしまうのですね。

そういう意味で，こういう無作為抽出の人が集まって，冷静な議論をするというのは非常に健全だし，結論は出ないにしても，考えるきっかけを与えられたという意味ではすごくいいと思います。なので，こういう会議は行政に主催してもらったほうが，中立性というか，冷静さが保たれるのかなと。考えるきっかけが与えられれば，先ほどの議論ではないですが，私はこうこうこういう理由で賛成だ，反対だ，どっちでもないという人がいっぱい出てくる。結局，行政が主催しないと，話し合おうとしても，好きな者同士が集まってしまうので，やはりよくないのかなと。

でも，そうはいっても，こういう場を持って，意見を取りまとめて，どっちと決めないとは言っても，結局，東海第二は再稼働するのか，しないのか，最終的に判断しなくては

いけないとなるので，それはどうやって決めるのかといったら，最後は，それを判断する人を選ぶという意味では，選挙で決めるしかないのかなと思っていて，結局，前半でも話をしましたが，東海第二がどうあってほしいかとか，東海村がどうあってほしいかというのはばらばらだから，こういうところで結論が出ないのは当然だし，そういうところで意見を闘わせてもしょうがない。要するに，僕はこう思う，私はこう思うの世界になってしまうので，最後は，東海村だと村長さんか分かりませんが，判断する人を民意で選ぶというところに行き着くのだろうと思うけれども，その一人一人の民意を考えるためのきっかけは，やはりこういう場であるほうがいいと思っていて，もう一つ，こういう場所を知らない人がいるという話もあったし，もっともっとたくさんやるべきなのかなと思う。そういう議論が色々なところで起こって，例えば選挙になったときに，村長選なら村長選で判断する人が，こういう理由，こういう判断でしようと思っていますと僕らに分かるように説明してもらえたら，自分の民意に合っている人に投票して，ここの場の話し合いだけでなくて，東海村の民意として東海第二をどうするか，どうしないかという判断が最後はできるのかなと思いました。

○伊藤　ありがとうございます。まさに議論する目的というか，場の違い。もしここがそれを聞く場だったら大変で，さっきＩさんからお話があったように，それを出そうとすればするほど，情報はもっと正確に，量が多く，何回もということになると思うのです。この場はそこまででない。考えるところだという中での今のＶさんのお話だったと思います。

Ｌさん。

○参加者Ｌ　私も，こういう話し合いの場を個人で立ち上げるのはなかなか難しいと思います。やはり行政が仕掛けていくべきだと思うのですね。今はコロナで，なかなか実現しませんが，例えば村政懇談会や村長との話し合いの場が東海にはあるのですね。ただ漠然と話し合う場ではなくて，例えば原発問題を自分のこととして考えるとか，何か一つテーマを決めて，行政と住民が話し合える場をつくっていくべきではないかなと思いました。

○伊藤　ありがとうございます。どうすればいいかということですね。

Ｐさん，いかがですか。

○参加者Ｐ　すみません。余り考えないで皆さんの意見を聞いていました。

でも，私も，議論にもよると思うのですが，原発関係のことはやはり行政がやるべきかなと思います。

でも，個人の井戸端会議的なものは，今コロナもあって，なかなか難しいと思うのですが，自分の知り合いや近しい人と話すと，自分の意見を言いやすいというのがあるので，話しやすい人同士で集まって，屈託のない意見みたいなものが出たのを色々なところから集めて，表に出るようなものがあったら，皆が何を考えているのか，もっと分かるのではないかなと思います。それをどうやって村の皆に伝えるかという方法が分からないのですが。

以上です。

○伊藤　その一部は，もしかしたらこの場でもやっているのかもしれなくて，何回目でしたか，近所の人と議論という意見もあった。まさに近しい話しやすい人からも意見をもらって，たまたま自分が選ばれたから，それも含めて話し合いをされるということも，今，Ｐさんがおっしゃったこととつながると思います。
○参加者Ａ　いいですか。
○伊藤　はい。
○参加者Ａ　何度もすみません。ゆくゆくは，民意というか，自分たちでというのがいいのかもしれないですが，松江で，原発のことで“自分ごと化”会議をやったところは，確か一番最初，民意で始まったという話があったではないですか。東海村の公民館で，村長が「そういう人が出てこないから，行政でやることにしました」と皮肉られたなというのが記憶に残っているのですが，これは参考までに教えてもらいたいのですけれども，こういった会議を主催されているＮＰＯですか，行政からの依頼でやっている割合と民間からの発案でやっている割合はどのくらいなのですか。
○伊藤　今まで住民グループでやったのは松江だけです。あとは全部行政ですね。
○参加者Ａ　では，お金を出してもらうのは行政ですね。分かりました。
○伊藤　ありがとうございます。
　最後の，どのようにすれば皆で議論できるかという点について，原発そのものの話だけでなくなったところがありますが，最初にＬさんがおっしゃった，今までは，賛成，反対だけの人の議論が多かったのだと。１回目の中でも，そういうお話が出ていました。Ｖさんから話があったように，もちろん，これが結論を出す場であれば，議論の仕方も変わりますし，ある意味では少し対立をしなければいけないかもしれないですが，それよりも必要なのは，もともと考える場をつくらない，そもそも判断できないのだというところがあるからこそ，僕らはこういう場をつくりたいと思っています。
　では，誰がこういう場をつくるかという中で，松江は住民グループがやったりしているのですが，行政が場を用意する。ただ，行政が全部場を仕切ろうとすると，行政の審議会のようになってしまいかねないので，行政ではない人が企画運営をしていくようなところも必要なのかなという話が出ていたかと思います。
　もう一つは，原発となると，ほかの子育てや防災などよりは，どうしても一瞬構えてしまうところがきっとあるだろう。私もそのように感じます。原発以外のことも話し合うことによって，住民で色々なことを話し合う村なのだといったところがあるといいのではないかという御意見があったと思います。
　そもそも東海第二があることをどう思っているのだろうというのを１回目から聞くと，皆固まってしまって，しゃべりにくいだろうなとずっと感じていたのですが，１回目から３回目にかけて，本当に皆さんが自分の考えを話されていたので，今日，こういうことをお聞きして，皆さんが感じられていることを御意見としていただいた。ほかのテーマでも，なかなか話しにくいと思うことを話せる場があったほうがいいというのが今日の最後の話

だと思っています。

ちょうど10分前になりました。改善提案シートをまだ書き終わっていない方，御記入いただきたいと思います。

最初に申し上げたように，皆さんに書いていただいたものをもとにしながら，次回に向けて提案書をつくっていきたいと思っています。

次回は，これまで話し合いをしたものを集約する場になりますので，どっちかというと，提案書に基づいて，これはどうですか，あれはどうですかと，若干細かいというか，話しにくいことになるかもしれませんが，最後までお付き合いいただければと思います。

最後に，村長から御挨拶いただきたいと思います。

○山田村長　どうも御苦労さまです。第４回も白熱した議論を展開されて，私もしっかり聞いていて，いや，本当にすばらしいなと。これは伊藤さんのファシリテーションの力なのでしょうけれども，本当に回を重ねるごとに色々な意見が出てきているということで，今回も非常に難しい課題で，私は，これはどのようになっていくのかなと思って心配していたのですが，これだけ色々な御意見が出たのは，この“自分ごと化”会議がだんだんと機能してきた成果かなと思います。

次は５回目ということで，まとめに入りますが，正直，いや，もったいないなと思っています。これから何回することがいいというのではないと思って，これはこれで一つしたのですが，本当にこの手法をまちづくりに活かしたい。

Ａさんが言われたけれども，これは私の言い訳なのですが，原発という問題は，行政が推進するまちづくりではないというところがやりづらいのです。計画づくりとか，この施設をどうしましょうとかというのがまちづくりで，行政が住民の意見を聞いてやらなくてはならなかったので，住民の意見を聞きますが，この問題は行政がやらなくてはならないものではないのです。だからこそテーマとして難しい。

これは単発でやるのではなくて，まちづくりと原発を組み合わせないと，本来，行政としては関わっていけないので，原発だけにフォーカスしてしまうと，そこは余り行政がこうあるべきとか言えないというところで，そこはちょっと引いているところがあるのですが，ただ，その場をつくることは行政としてできます。

今回，これは成功していると思いますし，ほかの，先ほど伊藤さんが言われた子育てや環境問題など，こういう手法を入れて，本来，どのようなまちづくりをしていくかというのはあるべきだと思っています。

役場は，どちらかというと，そういうものは全部審議会にお任せしてしまったのですが，こういう住んでいる方の生活から出てくる意見みたいなものをこれからどんどん拾い上げて進めていくべきだと思っています。

皆さんからこれだけの意見が出まして，こういう意見があるのだなと思って，私がこうやって聞いていることで，私が今後判断するのに非常に参考になることが多いので，私にとっては本当に毎回毎回勉強もできていますし，ここにいられる方の御意見を直接聞いて

いるという思いでいます。

この後，提言書も交わしていきますが，本当に皆さんには，この後も何らかの形で関わってもらいたいなという思いを持っていますので，そこはまた御相談したいと思いますが，私としては，ぜひ次の回で，またすばらしい話し合いをすることを期待しています。

今日は，どうもありがとうございました。

○司会　伊藤様，長時間にわたる会議の進行，まことにありがとうございました。

事務連絡

○司会　続いて，次第の４，事務連絡といたしまして，参加者及び会場の皆様に御案内させていただきます。

○山路係長　それでは，私から御案内いたします。

まず，次回の第５回会議につきましては，今後の政府や茨城県による新型コロナウイルス感染症対策の実施状況にもよるところですが，今のところ，12月中旬に開催できればと考えております。

参加者の皆様におかれましては，何かと御多用な時期とは存じますが，なるべく早めに御連絡させていただきますので，御予定方，よろしくお願いいたします。

続いて，傍聴者の皆様に２点，御案内させていただきます。

まず，お配りしました資料のうち，傍聴者アンケートにつきましては，お帰りの際に御提出に御協力くださいますようお願いいたします。

続いて，２点目ですが，会議冒頭でも御案内させていただきましたとおり，本日の会議の内容等に関しましては，ＷＥＢ配信等なさらないよう，行動への御配慮をよろしくお願いいたします。

以上で事務連絡を終わります。

閉　会

○司会　それでは，第４回目の“自分ごと化”会議は，以上をもちまして閉会となります。

参加者の皆様におかれましては，長時間にわたり会議の運営に御協力いただき，まことにありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。